

「真備地区復興計画（改定案）」のパブリックコメント集約結果

「真備地区復興計画（改定案）」について、「倉敷市パブリックコメント手続要綱（平成21年12月8日告示第683号）」に基づき市民の皆様から広く意見を募集しましたが、その結果は次のとおりです。

記

1 意見等の件数 5人 30件

2 御意見の要旨と市の考え方

次ページのとおりです（類似の御意見はまとめています）。

3 今後の予定

パブリックコメントでの結果を踏まえ、「真備地区復興計画」の改定を令和5年3月31日に公表しました。

4 参考

意見募集期間 令和5年2月1日（水）～2月22日（水）

御意見をお寄せいただきました皆様の御協力に厚くお礼申し上げます。

倉敷市 建設局 災害復興推進室

No.	御意見の要旨	倉敷市の考え方
1	<p>地球の温暖化により、今後より多くの雨量が集中的にそして頻度が高くなる恐れがあるため、その対策が必要である。</p> <p>いまさら高梁川、小田川の川幅を広げることは現実的ではなく、小田川の合流点を下流に持っていくことが次善の対策と考えられるため、1日も早く工事が完成することを期待する。</p>	<p>市はこれまで、抜本的な治水対策である小田川合流点付替え事業について、事業主体である国に対して、早期完成を要望しており、引き続き、令和5年度中の完成に向けて一日も早い完成を強く要望してまいります。</p> <p>また、流域治水の考え方のもと、市をはじめ、国や県とも協働して、激甚化・頻発化する豪雨災害に対応するために、ハード・ソフト一体となったあらゆる対策を講じてまいります。</p>
2	<p>平成30年の水害では高梁川の上流にあるダムの放水のタイミングに問題があったと考えている。</p> <p>今後はこの経験を活かして自治体・ダム所有者・関係団体との協議を平時から行い、大雨時に備えてもらいたい。</p>	<p>令和2年5月29日に、高梁川水系のダム管理者、河川管理者、関係利水者の21機関で「高梁川水系治水協定」を締結し、大雨が予想される場合には、ダムの事前放流に取り組んでおります。</p> <p>また、高梁川水系大規模氾濫時の減災対策協議会（岡山河川事務所主催）を定期的で開催し、河川管理者、ダム管理者、流域自治体で協議を行っております。</p>
3	<p>高梁川や小田川等の河川敷の樹木が年々成長し、西日本豪雨の際は川の流れの妨げになった。道路等の樹木や草も定期的に伐採が必要であり、これらはゴミとして焼却処分されている。</p> <p>樹木は単に燃やせばゴミとなるが、バイオマス発電の燃料にすれば資源となる。</p> <p>エネルギー地産地消にも貢献し、循環型社会の構築、ならびにカーボンニュートラルの一助になり、さらに雇用の場を増やすことにもつながる。</p> <p>玉島のハーバーランドや真備地区の空き地に発電設備を設置するなど、真備地区復興計画の中で、倉敷市内にバイオマス発電所の設置を検討してはどうか。</p>	<p>高梁川や小田川等の河川内で伐採した樹木については、河川管理者が希望される方々へ無償で提供するなど、有効に活用されています。また、木質バイオマスについては、本市単独ではなく、高梁川流域連携中枢都市圏と連携し、普及・利用等について検討してまいります。</p>

4	<p>真備地区の自然の豊かさのアピールと飲食店の復興支援と人の交流や賑わいの創出に繋がるため、新しくできるサイクリングロードを岡山県のハレいろサイクリングのサイトに掲載してほしい。</p>	<p>今回整備するサイクリングロードにつきましては、岡山県の「ハレいろ・サイクリング OKAYAMA」のサブルートへの登録を予定しております。</p>
5	<p>近年、各地で多発する災害や近い将来に発生する南海トラフ大地震に対して、災害に強い地域づくりは緊急の課題である。災害後、5年も経過すると防災に関する意識も薄れがちであり、当地区では、防災計画の作成に向けて動き始めたところである。</p> <p>今後は、行政・関係諸機関と連携を深め、ソフト面での支援をお願いしたい。また、地区防災計画の作成が行えるよう地域住民に周知徹底するために、継続的な研修や訓練が必要なので協力をお願いしたい。</p>	<p>地域の方が主体となって取り組む「地区防災計画」の作成支援をはじめ、地域特性に合わせた防災講座や防災マップ作り等の出前講座の開催等、引き続き市民の皆さまの防災活動の支援に積極的に取り組んでまいります。</p>
6	<p>復興防災公園、まきび公園、金田一、箭田大塚などの資源を活用したサイクリングロードの整備は楽しみである。</p> <p>防災公園、小田川堤防をはじめ、地域の環境整備を地域住民とどのように進めていくかは課題である。</p>	<p>地域の環境整備にあたっては、行政と地域住民等が連携し、良好な環境整備に向けた取組を進めていく必要があると考えております。復興防災公園（仮称）につきましては、地域の皆様によるイベントの開催や清掃活動の御協力などにより、愛着を持って使っていただくことができるよう、協働による管理運営について検討してまいります。</p>
7	<p>「川辺のふれあい広場」と「川辺の水辺の楽校」について、計画はどうなっているのか。広場については使用できない状態が続いている。</p>	<p>「川辺のふれあい広場」と「川辺の水辺の楽校」は、令和5年6月末を目標に復旧予定と伺っています。ご不便をおかけしますが、復旧までもうしばらくお待ちください。</p>
8	<p>小田川の工事が万全に出来ていなかったため、被災者は未だに苦しい生活をし、元の生活には戻れていない。これからもっと市議、県議の方が真備の為に考えてほしいと思う。そして、これから川の定期的な整備や溝の整備なども考えてほしい。</p>	<p>市はこれまで、抜本的な治水対策である小田川合流点付替え事業について、事業主体である国に対して、早期完成を要望しており、引き続き、令和5年度中の完成に向けて一日も早い完成を強く要望してまいります。</p> <p>また、道路側溝等の整備については、地域の実状にあった対策方法を検討し、緊急性の高い場所を中心に順次対策を実施しているところです。</p>

9	<p>2018年水害時の避難では、避難所を目指す車が大渋滞で動かなくなった。この経験から、避難場所までの交通状況や受入れ状況等の情報が、スマホの地図アプリや自動車のナビ画面にリアルタイムで表示される仕組みが必要と考える。アプリの開発企業やナビのメーカーなどと一緒に開発できないか。</p>	<p>避難場所までの交通状況については、本市が開設している「倉敷防災ポータル」サイトにグーグルマップへのリンクを貼っており、現在の位置からの道順検索や渋滞の状況も確認いただけますので、災害時にはご活用いただきたいと思います。</p> <p>また、同サイトで指定緊急避難場所の住所・最大収容人数及び開設状況を確認することができます。</p>
10	<p>水害時の車での避難では、増水により歩車道境界のブロックや水路の位置等が分からず運転が不安であった。</p> <p>そのため、狭隘道路の解消や水路への蓋、防護柵等の設置が必要ではないか。平時でも子供や老人だけでなく町を訪れる観光客にも安心して歩ける道路の整備が必要。</p>	<p>用水路等の転落防止対策には、さまざまな手法があり、地域の実状にあった対策方法を検討し、順次対策を実施しているところ です。</p>
11	<p>吉備路クリーンセンターでは、動物連れで避難された家族が、他の方に遠慮して玄関に留まっていた。避難所に動物連れ専用スペースを設けるような臨機応変な運用が必要ではないか。</p>	<p>盲導犬や介助犬等の障がい者補助犬を除き、原則として同行したペットは屋外又は個人の車中での避難をお願いしています。</p> <p>避難場所には、動物の苦手な方や、動物アレルギー等により動物と一緒にいられない方が避難してくる可能性があり、そういった方の避難行動を妨げないためです。</p> <p>なお、避難が中長期に及ぶ場合には、ペット同伴の避難所について柔軟に対応してまいります。</p>
12	<p>復興防災公園（仮称）は、駅から少し遠いが妥当な場所なのかなと思う。開園後に人が集い憩える内容になるかかどうか、せっかく造るなら行きたくなる施設・設備が必要ではないか。平時の活用にもっと工夫を望む。夜間は人けがなくなるため、治安上の心配や犯罪などへの心配もある。</p>	<p>地域の皆様に愛着をもって使っていただくためには、平常時の利用が重要であると考えています。また、照明については、防災面に配慮してまいります。</p> <p>なお、いただいた御意見については、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
13	<p>吉備真備駅周辺は閑散としており、特に南側は田園が広がるのみ。夜は街灯も少なく暗い状況で一人歩きには不安。せめて復興防災公園（仮称）周辺や吉備真備駅までの移動路には街灯を設置してほしい。</p>	<p>復興防災公園（仮称）から吉備真備駅までの夜間の道路照明につきましては、関係者と協議を行い検討してまいります。</p>

14	<p>復興防災公園（仮称）は、真備地区外の方も利用しやすい公園である必要がある。スポーツ施設の拡充、災害に対する啓蒙教育のできる施設、発災時の緊急避難場所としての機能だけでなく、資材や物資備蓄倉庫の拡充、ヘリポート設置、小田川水流監視施設、災害時の指令施設など、もっと内容を充実させ全国的に注目を集めることのできる場所とすべき。ただ造っただけではなく、地域がより発展する方向に進めてもらいたい。</p>	<p>復興防災公園（仮称）は、「平常時と災害時の両面で活用できる地域の発展につながる公園の整備」をテーマに、防災研修等に使える多目的室や防災備蓄倉庫を備えた建屋、様々なイベントの開催やヘリポートとしての利用も想定した芝生広場等を整備します。</p> <p>なお、いただいた御意見については、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
15	<p>南海トラフ地震が発生した場合、特に市の南側の海岸エリアは少なからず津波の被害もあると思う。その場合、真備町エリアの高い場所に受け入れの避難施設があっても良いのではないか。平時に遊ばせている施設・設備ではもったいないので、防災教育の場、大型運動公園、コンサート会場等としても活用できる施設が良いのではないか。そういった施設ができれば、発災後の救援活動の拠点としても利用できる（先般の水害時には消防・自衛隊が二万橋の中ほどにテントを設営し、橋上に消防車等の車両を駐車していたのが強く印象に残っている）。</p>	<p>津波が発生した場合の避難指示は、近くの安全な高台への避難を促すことが原則となります。津波の浸水想定区域のない真備地区については、液状化等の影響が無ければ、遠方からの避難の受け入れ先として活用できると考えております。</p> <p>次に、平常時の有効活用については、既存の公共施設や復興防災公園（仮称）を有効に利用し、市民と協働した防災教育や啓発イベント、防災訓練等を行いたいと考えております。</p> <p>なお、復興防災公園（仮称）は、災害発生後の救援活動の拠点としての活用を検討しております。</p>
16	<p>災害時の避難について、高齢者は避難自体が難しかったり、ご近所の方々も自分の命が危うい中でどこまで対処・援助できるのか。自助・共助・公助とはいえ、ある程度のマニュアルが必要かもしれない。行政主導で、各地の自治会や町内会に示したり、一緒に考えたりする必要があるのではないか。</p>	<p>自力での避難が難しい方の避難を平時から家族はもとより、地域や福祉専門職、行政が一体となって支えるための取り組みとして個別避難計画の策定を進めており、自主防災組織や福祉専門職の方を中心に順次制度説明会を実施しています。今後は、制度理解を深めていただき、地域等が主体となり計画を策定していただくため、より細かな説明会等を実施することとしております。</p>

17	<p>聴覚に障がいのある方は、サイレンの音や防災放送が聞こえない。先の水害時には私の住居地では、健常者の私でさえ防災放送が聞き取れなかった。</p> <p>スマホなどで災害の状況や避難のための情報が地図上に視覚的にリアルタイムで把握できる仕組みの開発をNTTやアプリ開発企業と行政とでできないか。発災時にいち早くドローンを飛ばして上空からの状況を住民に提供できるような取り組みもドローン業者と連携をして取り組んで貰えたらと思う。</p>	<p>避難指示などの緊急情報が発令された際には、緊急告知FMラジオ(「こくっち」)のライトが点滅して聴覚に障がいがある方も認識することができます。</p> <p>なお、「こくっち」は、令和5年度の夏頃に購入補助事業を開始することとしています。</p> <p>災害の状況については、「倉敷防災ポータル」サイトなどから、緊急情報や開設している指定緊急避難場所、雨量・河川の水位情報などを確認できます。</p> <p>ドローン業者との連携については、倉敷市と一般社団法人MASCとの間で災害時の協定を締結しており、情報収集や災害地図作成等の協力を要請することとしています。</p>
18	<p>町の発展のためには、将来に亘って住みやすい、活動しやすい町であることが必要であり、今後益々進む高齢者増社会を見据えて、鉄道・バス・その他の公共交通移動手段はぜひとも存続が必要。そのためには、自治体による財政支援が必要ではないか。公共交通機関という業態では、事業者だけの努力には限界があるため、市は近隣の市町村と連携を引き続き図りながら対処を続けていただきたい。</p>	<p>本市では、市民の皆様の移動手段を確保するため、鉄道・路線バス・コミュニティタクシーについて、利便性の維持・向上や施設等の適切な維持管理に向けて、財政支援を行っております。</p> <p>また、井原線振興対策協議会をはじめ、近隣の市町村や国、県とも連携を図りながら、公共交通の存続に向けて取り組んでまいります。</p>
19	<p>経営の安定・成長のためには利用が増えることが必要なわけで、それは住民人口が増えることに帰結する。そのためには、駅周辺に公共施設・商業施設・学校・企業などが必要。</p>	<p>本市では、公共交通の沿線に居住を誘導するとともに、駅などの地域・地区の拠点に都市機能を誘導することにより、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方に基づいたまちづくりを進めていくこととしております。</p>
20	<p>過去のパブコメでの意見を見ても真備町の魅力発信や観光客集客の意見が見られるが、観光客頼りでは、今般の新型コロナ禍のような感染症が発生したら破綻してしまう。やはり基幹となる産業や企業の定着が必要で、それに伴う住民人口の増加が絶対。ゆえに行政による企業誘致の政策や文教施設の設置が必要。</p>	<p>吉備真備駅から復興防災公園(仮称)までの歩道・自転車道の整備につきましては、専用の歩道は設けておりませんが、現道の拡幅工事を進めており、自転車道については、小田川の堤防道路を活用してまいります。また、夜間の道路照明につきましても、関係者と協議のうえで検討してまいります。</p>

21	<p>吉備真備駅周辺が都市機能誘導区域（生活拠点型）（+居住誘導準備区域）となっているが、近くに真備支所があるにも関わらず、人の往来は少なく閑散としている。駅舎南側は全く発展しておらず、田園が広がるのみ。人の回遊を増やすためにせめて、今後整備される復興防災公園までのアクセスを歩道・自転車道を整備することや、夜間の照明も備え明るく安全な景観としていただきたい。</p>	<p>なお、人の定住、企業・教育機関の誘致に関する施策など、いただいた御意見については、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
22	<p>町の発展のためには、人が集まる・住民が増えることが大前提。宅地や企業用地として取得しやすい政策で、人や企業が来やすくなる行政の支援が必要。人が定住できる施策、企業が入ってくる、投資する施策により、人口増を（特に若い人）をお願いしたい。また、高度な教育機関の設置で、教育レベルの高いエリアと位置づけ、子供の教育に関心の高い若い夫婦世代が住みたくなる街に（若い人が集まらないと発展しないし持続もしない）と願う。</p>	
23	<p>井原鉄道は、通勤通学型の鉄道であり、沿線に古墳や横溝正史ゆかりの地があるといえど、決して観光型の鉄道ではない。通勤通学型である以上、利用者が増えないことには発展は望めない。そのためには、JR倉敷駅への直接乗り入れが必要ではないか。</p>	<p>本市では、企画列車の運行や沿線施設・観光地と連携した効果的なPRにより、公共交通利用のきっかけづくりや新たなファンの獲得につなげるなど、公共交通の利用促進を図ることとしております。</p> <p>井原鉄道のJR倉敷駅などへの直接乗り入れや複線化につきましては、利用者数の見込み、必要となるコスト、運行事業者の意見などを踏まえ、研究する必要があると考えています。</p>
24	<p>産業・企業の誘致、文教施設には、それらへの通勤通学のしやすさが必要であり、井原鉄道の利便性の向上が必要。イオンモール倉敷辺りに駅を作ってJR倉敷駅と結ぶと利用客の増が見込める。高齢者に今日は鉄道に乗って町まで買い物に出かけようという気持ち・元気を引き出すことができると思う。計画案文中にも「利便性の向上に取り組むなど日常生活を支え、地区外からの来訪者にとっても利用しやすい持続可能な公共交通網の形成を進める」とあるためぜひともお願いしたい（計画案の中のこの記述部分、絶対抹消しないでください）。</p>	<p>井原鉄道の自前の線路建設については、いただいた御意見を、運行事業者にお伝えさせていただきます。</p> <p>また、本市では、JR倉敷駅付近連続立体交差事業等により、交通結節機能の強化を目指すこととしております。</p>

25	<p>井原鉄道はJR伯備線での故障・事故による運転停止の影響を必ず受けるため、自前の線路でJR倉敷駅まで結節できたら影響を受けることはなく、JRの代替交通手段として近隣住民が利用できる。JR伯備線の線路は山のすぐ脇に線路があるので、大雨や地震などで山が崩落すると運休になるため、井原鉄道は自前の線路を山から離れた場所に建設すべきと思う。</p>	
26	<p>JR倉敷駅への直接乗り入れに伴い、少なくとも井原鉄道本社のある荏原駅から倉敷駅までの複線化も必要。鉄道建設に伴う経済効果は高く、将来のJR山陽本線等の鉄道高架化も見据え、井原鉄道も複線化とJR倉敷駅までの直接乗入れを図るべき。鉄道線路や駅舎の高架化は水害に強く、自動車交通の妨げにもならないので、踏切などでの人や車との事故もなく、高架化は非常に望ましいと考える。</p>	
27	<p>井原鉄道を総社・国分寺周辺まで延伸すれば、地域住民だけでなく観光客も来やすくなるし、さらに言うならば、高松城址や最上稲荷をルートに入れ、岡山空港まで延伸すると観光客が倉敷に来やすい。船穂や玉島への南進も必要かも。JR山陽本線の駅に結節できれば、ループができ人の移動も増えると考え。</p>	<p>井原鉄道の総社・国分寺周辺までの延伸や船穂や玉島への南進など、いただいた御意見については、運行事業者にお伝えさせていただきます。</p>
28	<p>人口が増加し、鉄道利用者が増えれば、高齢者にやさしいエレベーターの設置や、駅舎ホームでの待合環境の改善、キセル防止のための自動改札の設置などに取り組むことができる。自動改札においてはAIを活用し顔認証や運転免許証の自主返納者に配布される「おかやま愛カード」の読み取りにより料金の優遇政策が行えるなど、特に後期高齢者も含め、利用促進に向けた方策が必要であり可能であると考え。また、設備の自動化は鉄道関係者の省人化、軽労化にも繋がるよう投資は必要と考える。</p>	<p>本市では、ユニバーサルデザインの推進等により、誰もが利用しやすい環境を整備していくこととしており、利用者数などの基準を満たす駅舎や乗り継ぎ経路について、バリアフリー化を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、過度な自動車利用から公共交通利用への転換の促進や各種情報提供による効果的なPR、イベント・キャンペーン等の実施により、公共交通の利用促進を図ることとしております。</p> <p>デジタル技術の活用による利用促進や省人化など、いただいた御意見については、今</p>

		後の取組の参考にさせていただきます。
29	<p>県道下原船穂線の柳井原小学校辺りから山陽新幹線の下をくぐって歩道が整備されている部分まで、中高生が自転車で車道を走っており、非常に危ないため何とかならないものかと思う。</p> <p>また、高梁川沿いの県道下原船穂線でも朝晩自転車で通っている学生がいるが、これも危ないと感じる。道路の整備をぜひともお願いしたい。</p>	<p>県道下原船穂線の柳井原小学校から山陽新幹線高架の南側までの区間については、小田川合流点付替え事業及び関連事業で整備を行う河川管理道や自転車歩行者道によって、自転車や歩行者の通行空間が確保されると、河川管理者である国や道路管理者である県から伺っています。</p> <p>また、高梁川沿いの県道については、頂いた御意見を道路管理者である県にお伝えさせていただきます。</p>
30	<p>真備町の交番は2か所だけか。小さいしもっとあっても良いのではないか。消防の真備分署ももう少し大きくても良さそうな気がする。</p> <p>賛否両論あるでしょうが、人口増には自衛隊の誘致も方法の一つでは。警察や消防と同じく、近くにいると心強いし、災害時、隊にヘリポートがあれば活用もできる。</p>	<p>いただいた御意見については、関係機関へお伝えするとともに、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>